

平成30年度「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	大阪府教育委員会
研究課題	○府立中学校（併設型中高一貫校）における学校運営協議会の在り方 ～広域外部サポーターとの協働ネットワークの構築による効果的な教育の実践～
研究のねらい	モデル校として指定した府立富田林中学校・高等学校において、学校運営協議会を母体とし、有識者や府教育庁指導主事・社会教育主事等を加えた「コミュニティ・スクールネットワーク協議会」を構成し、中高一貫校における地域協働の実際について検討する。また、同校が発信する教育テーマに対し、役割を引き受け学校運営に参画できる広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・行政機関・民間団体等）とのマッチングをめざす。
研究の概要	<p>①コミュニティ・スクールネットワーク協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会を7回開催し、同校の教育方針及び学校経営計画を説明するとともに、中高一貫校におけるコミュニティ・スクールとしての地域協働の実際について具体的な検討を行った。その中で、広域外部サポーター・生徒・教職員による熟議（テーマ「私たちが地域にできること」）を開催し、地域連携のあり方について考える機会を設けた。 <p>②広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットを作成し、同校のコミュニティ・スクール構想について広域外部サポーター・保護者・地域住民等に広く発信した。 <p>③広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・行政機関・民間団体等）との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同校がめざす教育テーマ、コミュニティ・スクールのしくみについて広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・行政機関・民間団体等）に協力依頼し、地域学校協働本部（NPO法人：学びと育ち南河内ネットワーク）への加入を求めた。 ・府教育庁（地域教育振興課）、府（公民戦略連携デスク）のリソースを活用し協力いただける可能性のある企業を新たに発掘し、連携を求めた。 ・探求活動のフィールドワーク先として多くの団体に連携を求めた。 <p>④情報収集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域とともにある学校づくり推進フォーラム（和歌山県会場、香川会場、東京会場）」に出席（学校運営協議会委員、同校教員）し、情報収集を行った。 ・他県の中高一貫校を視察し、企業等との連携について情報収集を行った。 <p>⑤地域学校協働本部との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部会議に校長及び地域連携教職員が出席し学校との協働方法について検討した。（事務局が同校敷地内の中高一貫校記念館内に拠点設置された。） ・地域学校協働本部をNPO法人化し、法人主催の講演会を生徒対象に同校で実施した。 <p>⑥校内への普及について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に全教職員を対象にした本事業に対する研修を実施した。 ・探求活動のフィールドワーク先について担当教員が企業等の団体を探し出すなど地域連携に関わった。 ・「とんこう地域フォーラム」において、中学校、高校の教員が企画や広域外部サポーターの参画を求めるなど地域連携に関わった。 ・コミュニティ・スクールネットワーク協議会で実施した熟議には、生徒と共に教職員も参加して、広域外部サポーターと関わり、意見交換をした。
研究の成果	<p>①コミュニティ・スクールネットワーク協議会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な役割の教職員が会議に出席することで、中学、高校の枠を超えて学校全体でコミュニティ・スクールによる取組の理解が促進された。 ・学校運営協議会、地域学校協働本部、広域外部サポーター等と教育テーマの共有ができた。また、熟議を実施したことによりテーマ実現のための具体的なアイデアを得ることができた。 ・生徒を熟議に参加させることで、生徒自身が探究活動で培った地域連携への意識をより強め、自ら積極的に考えるとともに、様々なアイデアを提案できるようになった。また、広域外部サポーター等の多くの人に同校生徒の姿、考えていること等を知ってもらうことができた。 <p>②広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会・企業・大学・行政機関・民間団体・地域住民・保護者等に対して同校のコミュニティ・スクールとしてのしくみを理解していただくきっかけとなった。

<p>研究の成果</p>	<p>③広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・行政機関・民間団体等）との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員と広域外部サポーター担当者との間に顔と名前が一致する関係ができた。また、地域学校協働本部の会議に参加し、意見をいただける団体が出てきた。 ・探究活動において広域外部サポーターを募集し、128団体の協力を得て生徒による取材等を実施することができた。 ・「とんこう地域フォーラム」では、同校がめざす社会協働の在り方について、学校運営協議会、広域外部サポーター、教職員、生徒の参画によるパネルディスカッションを公開するとともに、社会協働の取組についてポスターセッション等において生徒発表を行った。また、マッチングした広域外部サポーター（25団体）が社会貢献に係るブース展示を行った。本企画についてはマスコミ等と連携し広く社会に発信した。 <p>④情報収集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとしての取組を教育課程の中で実践することの必要性を学ぶことができた。 ・他県の中高一貫校を訪問し、地元で開催された工業イベントにおける地元企業との連携や、海外研修において地元企業のアメリカ支店を訪れ現地の見学をする取組など、さまざまな地域連携のあり方を学ぶことができた。 ・「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に出席したことで、全国の学校の地域連携のあり方を学ぶことができた。 <p>⑤地域学校協働本部との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部とめざす教育テーマを共有することができた。また、トップランナー講演会（社会で活躍する人をロールモデルにする）の企画や学習支援体制の構築等、具体的な協働活動実施に向けたプログラムの協同開発を行った。 <p>⑥校内への普及について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修によって、コミュニティ・スクールは同校がめざすテーマを実現するためのしくみであり、現在進めている教育活動が持続可能となることを教職員が理解した。 ・教員が探求活動のフィールドワーク先である企業等との連携に関わったことで、交渉力が身に付いた。 ・「とんこう地域フォーラム」において、中・高の教員がその企画や広域外部サポーターの参画を求めるなど地域連携に関わることで、教員自身が地域について考える機会になった。 ・コミュニティ・スクールネットワーク協議会で実施した熟議では、教職員も参加して広域外部サポーターと関わり、コミュニティ・スクール、地域連携への理解が深まった。 <p>⑦成果の検証について</p> <p>事業実施により、以下の点について効果があったと認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域外部サポーターについて、目標20団体に対して25団体とマッチングができた。 <ul style="list-style-type: none"> ○探究活動での連携 ○「とんこう地域フォーラム」への参画 ・「熟議」の開催により、広域外部サポーターと学校運営協議会、教職員、生徒が交流し、地域の課題及び活性化についてアイデアを出しあうことができた。 ・広域外部サポーターと生徒が直接交流することで、将来の生き方について考えるきっかけとなった。 ・社会への貢献意識や将来社会で活躍する力の育成に係る教育活動を推進できた。
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>大阪府教育庁 高校再編整備課 06-6944-6728</p>